

順序構造分析によるデートレイプ 判断の性差の検討

北風菜穂子*・いとうたけひこ**
井上孝代***

Gender Difference of Subjective Criteria of Rape Judgment by Order Structure Analysis

Nahoko KITAKAZE*, Takehiko ITO**,
and Takayo INOUE***

The subjective judgment of rape differs according to situations and gender. The present study asked 56 students to judge the degree of coercion in 9 rape situations. Order Structure Analysis (OSA) was conducted to reveal the gender difference in terms of the order relationship among the situations. The results showed that men's inter-situation cohesion was much stronger than women. It is suggested women tend to regard different situations more independent each other.

key words: rape, judgement, Order Structure Analysis

問題と目的

レイプとは、「他者の意思に反して性行為を強要すること」と定義される(藤岡, 2006)。身体的暴力を伴う強要だけでなく、セックスに応じないとより悪い結果をもたらすなどという脅しや圧力によって強要する行為もレイプに含まれる。実際に交際相手からの「デートレイプ」(Koss & Harvey, 1991)では、身体的暴力を伴わないことばによる強要を多くの女性が経験している(Livingston, Buddie, Testa, & VanZile-Tamsen, 2004)。しかし第三者からは、デートレイプの加害責任は未知レイプよりも小さいと判断され(北風・伊藤・井上, 2009)、ことばによる強要の場合、男性回答者は、被害者にも責任がありディストレスも深刻でないと判断する傾向にある(Katz, Moore, &

Tkachuk, 2007)。つまり男性は女性よりもことばによる強要をレイプと判断しないことが推測される。男女間での認識のズレは、デートレイプのリスクを高めることから、大学生に対して予防教育的な介入を行っていくための基礎データを得ることが必要である。そこで本研究では、デートレイプ場面に対する強要であるかの判断の順序構造を明らかにし、性差を検討することを目的とする。本研究では、事象間の順序を明らかにする順序構造分析(戸田・酒井・やまだ, 2009)の手法を用いる。順序構造分析とは分析対象となる測定項目群から抽出することのできる、2項目のペアすべてについて、項目間に順序性が成り立っているか否かを判定し、順序性が成り立っている2項目の「ブロック」が組み合わせられてきているより複雑な順序構造を見いだすものである。

方 法

調査対象 首都圏私立大学で心理学を専攻する学生 56 名(男性 25 名, 女性 31 名)で、平均年齢は 21.63 歳($SD=3.27$)であった。

調査方法 2009 年 5 月, 大学の講義終了時に質問紙を配布し, 郵送にて回収した。

調査内容 藤岡(2006), Kelly(1987, 堤監訳 2001)を参照して作成した, 9 つのデートレイプ場面に対し, 「1. 全く無理強いしていない」から「5. かなり無理強いである」までの 5 段階で評定するよう求めた。

結果の処理 「2 項目間に順序性がある」の 2 条件について, 「差異条件」として F 検定によって得られた F 値の絶対値を採用し, 「相関条件」として相関係数を基準値とした順序構造分析を行い, 9 つのデートレイプ場面間の順序性を示し, その順序構造の性差を検討した。

結 果

Figure 1 および Figure 2 は場面間のブロック関係を図に表したものである。図に示されているラインは, .4 以上の相関があり, 有意確率 1% 以下 ($F>7.82$) で平均値に差が見られた場面間を結んでいる。ラインの太さは相関の強さを表し, 太い順に相関係数の値が .8 以上, .6 以上 .8 未満, .4 以上 .6 未満の 3 段階である。

また各場面を表す円の左右の位置は回答の平均値を表している。よりセックスの無理強いであると判断されている場面ほど図の右方に位置する。●は身体的暴力や暴力の脅しに関する場面, ○はことばや態度による強要に関する場面, 中間色は相手の意思の確認に関する場面であった。

男女ともに 5「壁を叩いて脅す」と 8「こぶしで殴る」から 2「関係を破綻させるという脅し」のブロックが見いだされた。また 8「こぶしで殴る」から 7「怒る・泣くなどによって懇願する」, 9「性生活に不満足だという感情の表

* 明治学院大学大学院心理学研究科
Graduate School of Psychology, Meiji Gakuin University

** 和光大学現代人間学部
Department of Psychology and Education Faculty of Human Science, Wako University

*** 明治学院大学心理学部
Department of Psychology, Meiji Gakuin University

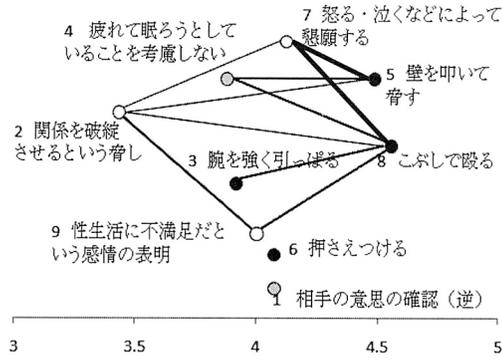


Figure 1 デートレイプ判断の順序構造分析(男性)

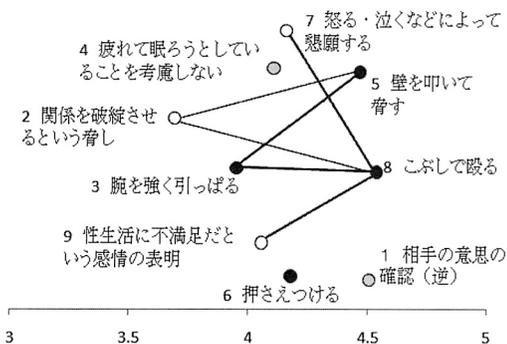


Figure 2 デートレイプ判断の順序構造分析(女性)

明」, 3「腕を強く引っ張る」へのブロックも男女で共通していた。また、男女ともに6「押さえつける」と1「相手の意思の確認(逆)」では、ブロックが構成されなかった。

男女で異なっていたのは、男性では7「怒る・泣くなどによって懇願する」および9「性生活に不満足だという感情の表明」から、2「関係を破綻させるという脅し」に対してのブロックが見られるのに対し、女性では見られなかったこと、4「疲れて眠ろうとしていることを考慮しない」は男性では、5「壁をたたいて脅す」および8「こぶしで殴る」との相関が強く、ブロックが構成されているが、女性では単独で存在していることの2点であった。

考 察

順序構造分析の結果から、デートレイプ場面に対する強要の判断の順序構造には性差があることが示された。

男性はブロックの数が多く、各場面に対する判断に強い関連性がある一方、女性は各場面の配置は男性と類似しているが、ブロックの数が少なかった。このことから、男性の各場面に対する強要の判断は一様に行われているもので、各場面に対する判断の違いはそれほど明確ではないと考えられる。しかし女性の場合には各場面に対する判断にはばらつきがあることが推察される。たとえば、「疲れて眠ろうとしていることを考慮しない」では、男性は身体的暴力に関する場面と相関し、順序が示されているが、女性で

はこの場面は他と相関していなかった。強要される側に自らの立場を置いて考えることが予想される女性と、そうではない男性では、それぞれの行為の持つ意味や強要性についての物差しは異なっているかもしれない。また強要の判断には、性経験や態度などの個人要因の影響があると思われるが、本研究ではそれらの要因を検討していないため明らかにされなかった。今後はレイプの判断に影響を与えることが明らかになっているレイプ神話受容態度(北風他, 2009)などの要因を含めた検討が必要であろう。

次に男女共通の結果として、ことばによる強要は、身体的暴力や暴力の脅しの場面よりも強要と判断されないことが示された。これは先行研究(Katz et al., 2007)の結果とは異なり男女の差がないということである。身体的暴力を伴う場合のほうが、より攻撃的であると判断され、典型的なレイプのイメージと合致しやすかったと考えられる。

以上のことから、デートレイプに対する強要の判断の順序構造については男女の違いがあることが示唆された。ただし、その関連要因については検討の余地がある。また順序構造分析の時間的順序や因果に関する研究への応用可能性については、さらに方法的検討を深めることが可能であろう。身体的暴力を伴わないことばによる強要もレイプであると判断できるようになることは、レイプを身近な問題として可視化し、人々の意識の変革を促すという意味で重要であると考えられる。今後は男女の判断の順序構造の違いを考慮し、効果的なレイプ予防教育を実施していくことが必要である。

引用文献

- Koss, M. P., & Harvey, M. R. 1991 *The rape victim: Clinical and community interventions. 2nd ed.* Thousand Oaks: Sage Publications
- 藤岡淳子 2006 性暴力の理解と治療教育 誠信書房
- Katz, J., Moore, J., & Tkachuk, S. 2007 Verbal sexual coercion and perceived victim responsibility: Mediating effects of perceived control. *Sex Roles*, 57(3-4), 235-247.
- ケリー L. 2001 性暴力の連続体 ハマー・J., メイナード M. 編 堤 かなめ監訳 ジェンダーと暴力: イギリスにおける社会学的研究 明石書店 pp.83-106.
- 北風菜穂子・伊藤武彦・井上孝代 2009 レイプ神話受容と被害者: 加害者の関係によるレイプの責任判断に関する研究 応用心理学研究, 34(1), 56-57.
- Livingston, J., Buddie, A., Testa, M., & VanZile-Tamsen, C. 2004 The role of sexual precedence in verbal sexual coercion. *Psychology of Women Quarterly*, 28(4), 287-297.
- 戸田有一・酒井恵子・やまだようこ 2009 心理学研究における順序構造分析の提案と課題 日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 303.

(受稿: 2010.9.24; 受理: 2011.7.27)